



—東地中海・北アフリカ地域ニュース—

エジプト：サウジアラビアとの政治・経済関係 (12日付マスリー・アルヨウム紙)

2012年7月11日～12日、エジプトのムルシー大統領は、大統領就任後初めての外遊先としてサウジアラビアを訪問し、アブドゥラー国王、サルマン皇太子らと会談した。エジプト大統領府の声明によると、今次訪問では、サウジの対エジプト投資の強化等について合意された。

7月12日付エジプトのマスリー・アルヨウム紙は、ムルシー大統領のサウジアラビア訪問に関連して、エジプトとサウジアラビアとの政治・経済関係について報じた。概要は以下のとおり。

1. エジプト・サウジアラビア間の政治関係

(1) ムルシー大統領のサウジアラビア訪問は、ムバーラク政権崩壊以後18カ月間緊張関係にあった二国間関係を終了させるものである。一部の革命勢力は、サウジアラビアがムバーラク前政権を経済的に支援してきたとして非難していた。また、エジプト人弁護士であるギザウィー氏がサウジアラビア王家を中傷したとして逮捕されたことが政治問題化していた。

(2) しかし、ムスリム同胞団出身のムルシー大統領は、中東地域におけるサウジアラビアとの戦略的関係を重視したことから、初の外遊先としてサウジアラビアを選んだ。エジプトとサウジアラビアが戦略的関係を深めることは、中東地域の安定と経済発展に繋がるであろう。

(3) また、エジプトは、湾岸地域においても大きな影響を有する国であり、両国が戦略的関係を築くことによって、湾岸地域へのイランの影響力に対抗する狙いもある。

2. エジプト・サウジアラビア間の経済関係

(1) 2011年のエジプト・サウジアラビア間の貿易規模は44億2,500万ドルで、2005年の13億6,700万ドルより大幅に拡大した。

(2) 2010/11年のサウジアラビアからの対エジプト直接投資(FDI)額は2億630万ドルで、サウジアラビアは、アラブ諸国の中では第一の対エジプト投資国である。

(3) 両国は、経済協力や技術協力のほか、貿易及び投資においても協力関係を築いてきた。また、発電所建設プロジェクトやサウジアラビアとエジプトをつなぐ架橋建設プロジェクト等、さまざまなプロジェクトを協力して実施している。両国の経済関係を深める焦点は、(a) 無償資金協力及び借款、(b) 貿易、(c) 投資、(d) 各種協定締結の4点である。

(4) サウジアラビアには、180万人のエジプト人労働者がおり、公式に登録されていない人々も含めれば、300万人を超すと言われている。エジプトの全労働者人口のうち10%が海外で労働している。うち70%はアラブ諸国、特にGCC諸国に出稼ぎに行っており、その中心はサウジアラビアである(中東調査会注：2000年時点で、海外にいるエジプト人労働者のうち、サウジアラビアにいる者は全体の34%であった)。2011年のサウジアラビアからの出稼ぎ海外送金額は、6億ドルに達した。